

公開講座の開設主旨・目的等

今年は、神戸大学文学部の創立70周年にあたります。また、5月には日本の元号が変わりました。この機会に、「とき」についてあらためて考えてみたいと思います。

アウグスティヌス(354-430年)は『告白』の中で「ではいったい、時間とは何でしょうか」と問い、「私たちが会話のさい、時間ほど親しみ深く熟知のものとして言及するものは何也没有せん。それについて話すとき、たしかに私たちは理解しています。他人が話すのを聞くときも、たしかに私たちは理解しています」と述べますが、しかし「たずねられて説明しようと思うと、知らないのです」と続けます。

たしかに、時間は身近なものですが、いざそれが何であるかと問われると、答えるのは容易ではありません。しかも、時代や社会が異なれば、「とき」の意識や感覚も違ってきます。「とき」について、人文学の諸分野でさまざまなアプローチが考えられますが、今回は次のようなテーマを取り上げます。

「とき」を超えて過去の日本語の姿に迫るにはどうしたらよいでしょうか。自分の時間を紡ぐ行為である自伝を通じて見える現代中国の自己認識の変化とはどのようなものなのでしょうか。空間を対象とする地理学で「とき」はどのように研究されているのでしょうか。そして、19世紀前半から現在に至るまでのフランス文学で「時間」はどのように描かれてきたのでしょうか。

知的なひとときをお楽しみいただければと思います。

講義日程・題目及び講師

回	講義日	時間	講義題目	講師
1	10月5日(土)	13:30-13:40	挨拶	文学部長 奥村 弘
2		13:40-15:10	日本語の「時」を超える試み:古文を使わない日本語史	准教授 石山 裕慈
3		15:20-16:50	自分の時間を紡ぐ:現代中国の自伝空間	教授 緒形 康
4	10月12日(土)	13:30-15:00	歴史地理学における「とき」:「人文」主義的解釈も含めて	教授 藤田 裕嗣
5		15:10-16:40	フランス文学で「時間」はどのように描かれたか	教授 松田 浩則

連絡先

神戸大学大学院 人文学研究科 総務係

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

TEL:078-803-5591

FAX:078-803-5589

E-mail: lsoumu@lit.kobe-u.ac.jp

※メールアドレスの一部(ac.jpの前など)には、メールアドレスの収集ロボット対策として半角スペースが挿入されております。メールアドレスご使用の際には、適宜修正願います。